

ポップス・トランペット界のカリスマになりそうな勢い！

## クリス・ボッティ

ポップス、フェュージョン、あるいは「スムース・ジャズ」などにジャンル分けされて来たクリス・ボッティの名前を知らない読者もいるはずだ。

全米のジャズ部門でチャート1位を4度も達成し、2004年のアルバム

「When I Fall In Love」はジャズ部門全米最高売上を記録。グラミー賞を受賞し、ワールドシリーズやノーベル平和賞授賞式で演奏。『People』誌で「世界で最も美しい50人」に選ばれた等々、彼のキャリアを飾るさまざま

なタイトルやイベントは、その演奏をまだ知らない人に大きな期待を抱かせるには充分すぎるほど。

アルバムでは、2008年9月にボストン・シンフォニー・ホールで行われたライブが話題を呼んでいる(クリ

ス・ボッティ・イン・ボストン)として3月にユニバーサルミュージックから発売。ボストン・ポップス

トーン・セヴェリンセンを見て、トランペッタのかっこよさに魅了されてしまった。トランペッタを手に入れ、マ

イルス・デイヴィスを聴いてからはジャズに夢中になり、ジャズ・ミュージシャンになろうと思つた

12歳のとき、「マイ・ファニー・バレンタイン」を聴いて以来、マイル・デイヴィスは彼のアイドルであり続け、「今でも毎日彼の音楽を聴いている」という。高校時代からプロ活動を始め、インディアナ大学のジャズコースに進んだ。同大ではランディ・ブレッカーナなども師事したトランペッタの名教師ビル・アダムに学んだ。

「トランペットという楽器は毎日の基礎練習を怠ると、唇を最適の状態に

2008年9月に行われたボストン・シンフォニー・ホールでのライブから。チェロのヨーヨー・マ、スティングと共演するボッティ。この3月にユニバーサルミュージックからライブCDがリリースされた。  
Photo by LeAnn Mueller



Chris BOTTI  
oom up

日(土) 東京芸術劇場大ホール(午後2時)、4日(日) 愛知芸術劇場コンサートホール(午後1時半)、6日(火)

大阪のサンケイホールブリーゼ(午後7時)。04年、06年と来日しブルーノートなどに出演しているがコンサート

ホールでのライブはこれが初。共演はギターがマーク・ホイットフィールド、ピアノがビリー・チャイルズ、ド

ラムがビリー・キルソンほか。公演の問い合わせはサモンプロモーション(0120-499-699)。

1939年製のヴィンテージ、マーチン・コミッティのハンドメイドモデルを手にするクリス・ボッティ。ラージボアの楽器で、ボッティは独特のダークで柔らかいサウンドを効果的に生かした演奏を行う。

をつとめたこともあるとか)カリスマ的に見えさえする。

何より、太くて柔らかなサウンドを武器に「成熟した大人の音楽」(NYタイムズ)を奏でる彼の音楽に癒される人は多いだろう。

1962年、アメリカのオレゴン州ポートランド生まれ。

「ピアニストだった母がピアノの弾き方を教えてくれたけれど、僕は違うことをやりたかった。ある日、テレビでドク・セヴェリンセンを見て、トランペッタのかっこよさに魅了されてしまった。トランペッタを手に入れ、マ

イルス・デイヴィスを聴いてからはジャズに夢中になり、ジャズ・ミュージシャンになろうと思つた

12歳のとき、「マイ・ファニー・バレンタイン」を聴いて以来、マイル・デイヴィスは彼のアイドルであり続け、「今でも毎日彼の音楽を聴いている」という。高校時代からプロ活動を始め、インディアナ大学のジャズコースに進んだ。同大ではランディ・ブレッカーナなども師事したトランペッタの名教師ビル・アダムに学んだ。

「トランペットという楽器は毎日の基礎練習を怠ると、唇を最適の状態に

保つことができない。そのためには、ビル・アダム教授から教わったロング・トーンとスケールの基礎プログラムを、日課として今まで25年間続けてきた。このメソッドと教授の教えがあつたおかげで、僕は今のサウンドにたどり着くことができ、たくさんの人を受け入れられ、成功することが出来た

と思っている」

卒業後ニューヨークで本格的に活動を始めるが、ポップス系のセッションミュージシャンとしての人気が高まり、ボブ・ディランやアレサ・フランクリン、チャカ・カーンなどのレコードに参加。1990年からボーリル・サイモンのレギュラーメンバーになり、その後ステイングのツアードでメンソリストをつとめるなど注目を集め始めた。

「ファーストアルバムは、1995年にヴァーヴ・レコードからリリースした「First Wish」。2001年にコロ

ムビア(現ソニーミュージック)に移籍し、これまで10枚近いソロアルバムを出している。

楽器は貫してマイルスが愛用したことで知られるマーティン「コミッティ」モデルを使い続けてきた。本誌のメールインタビューにボッティは次のように答える。

「1939年製のハンドメイドモデルでラージボアの楽器。マウスピースは1926年製の33番。銀メッキで、バックボアを「13」にまで拡げている。ボアもマウスピースもベルも大きな口径です。それによって僕がを目指している、丸みを帯びた、少し暗めの豊かな音色を奏でることができます」

「甲高いサウンドよりも、美しい低音を中心、人の琴線に触れる哀愁を帯びたメロディーを奏でたい」という彼の言葉は、CDでもよく確認できるが、4月の来日公演で彼の生の音の魅力にぜひ触れてみたい。公演は4月3



ポップス・トランペット界のカリスマになりそうな勢い。